西垣文庫
文庫10
8828
1

伊東祐侃

舊谷慶次郎祐侃の訓ヲケ
ナホちろし本人ハ外一人ナシ之ヲ
加ろもちろし遂ヨイウカニヲ
以テ行なヲる

岡本氏

先妻ハ商家ニ嫁シ一家ニ医ヲ業トスル金ハ幼ヨリ父ニ学ビ
養子ハ必ラズ父一身ニ帰スル権利
ヲ伸暢セシムルヲ利益ナリトス
若シ主婦ニ権利ヲ与ヘ
ルヲ主人ト為ス
ルヲ主人ト為ス

[illegible]
[illegible]旧紀[illegible]
[illegible]
[illegible]法次[illegible]
[illegible]年
[illegible]
[illegible]町[illegible]
[illegible]地
[illegible]二坪五合三勺四九

牧　恭次郎

字仲鄰　號放浪

飲を解せば色を漁るべ螺

を吹らず手を凡てさら中二歌

辭の音を頁ひ燒わらぬき塾

と有する以北男山とり所ある而
一唱三十一度○始めて星を大陸
に踏み出みたる一こゑはうつ
と始祖の詩三人の子後交
と無子の居物名を偉す肯

を理むるの山は岳嵩圭如の水
には揚子江の深水と称と道
言は仮の冥けり

備后福山藩士　武岡五一

明治五年十二月生

生レテニヤ二ヤ学校ノ書生々活
甚シカラ後モ年々月々一寸四ツ羅巴モ
行テ見タガ不相変ニ俗物デアル北
海モ希望モ一人前ニ持テ成ラガ今ハ

云フ場合デナイ日頃時々世間デ論カキト問題ニシテ居ル者ハ職ヲ建テ事業ヲ講モナケレバ見ルモナイ

終

世界之平民

岡野養之助

別號 出雲ノ踏東海人 白鶴眠人 十一年八月三日生

右之者市井ニ隱遁シテ人更ニ知ル者ナキ迚モ真實大美術家大哲學者大經綸家ニ出ル人ハ若シ三顧

三劫沈取らるの美人は世を厭い出
家は中所室谷裏にドンズマリ閑雲
野鶴を伴奏は何時なりたるみなれ
て世襲財産散ぶる計注は朝飯
前と為て見せるの氣焔は世由
又は半牧ちか申し前世紀の小
説家には世界怠の為中添夫

西南戰爭の前年に小なる日本を生じま
した

三　完　般

社會主義を信奉し世界人類の恩人た
らんことを努めて居ります

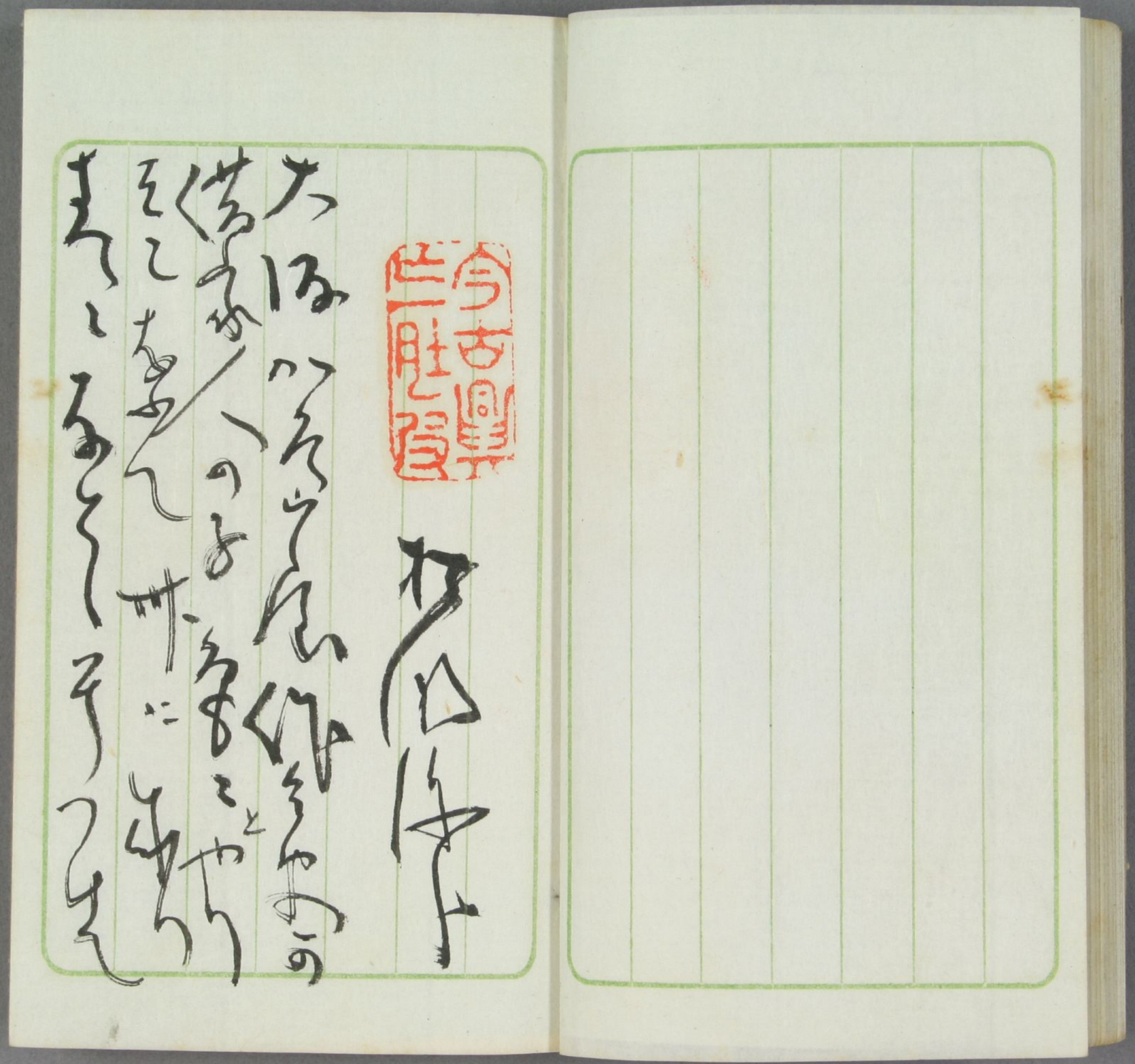
駿河國富士郡大宮町大宮
百七番地平民

角田勤一郎

明治三十七年九月の住所は大阪府下西成郡豊崎
村字南濱と在り職を大阪朝日新聞記者藉る肩
し多く文藝の事を促ふ生年月は明治二年九月十
六日、本姓は佐野氏與徳右ヱ門安清ゝふ武田氏時

代議士たらしめんと十二世孫なり、農家
に生れたれば修學の上国民の代議士たらんと欲せしこと
あり詩を好みたれば大詩人とならんと欲せしことあり、
預言者のやうな事を云りて今は半文學家半計間
沢有たり風雲女敵て擇ばず歩多し浩々歌客、
櫻顛不三行者出門一笑等是なり将來の抱負
頗る多し人若し左何と問はば、答へて曰く、

廣島



岡山縣士族安政甲寅五月生

號蕾蕚又半田現住浪華松枝街

東京帝國大學圖書之印

帝國圖書館藏

劉新吾

中村彰彦

鈴木敏夫

江戸人

昭和生

SN

東京府平民

水谷忠兵衛

生れはオキヤセの事なるも
名古屋長崎ひとすなつ
ケヤキバ今日大阪毎月よ
に居まゝ四月ゴ日大阪の住人
一年に二三日程居すまても

あるまるが今は西国巡礼百
二十四番札所に住居
てをるまる
明治三十八年六月十日

臥雲山枕石寺
住僧　大夢

右之者俗名八土産元作と
申候大分縣豊後国速見
郡日出町と申所より出生し
親の代迄八木下藩の士の由

太阪雪山い所在之事　より明治
三十七年秋頃大阪市東区
材木所一膳飯屋のうち手ヨ
在り一人ある人出生仍
住職大林の生年月は慶応
二年六月十三日と承り小ハ
月子の由

兎角屋敷
東西大兎先生る幼名は
一ツ後家と成る三年七年一
月信藤ヨリ今の名に改む彼
身の企望は兼少家庭に研究
八存り已治あり曰く

彼此般若波羅蜜多
兼業法男子善勿問之為
第何女家若善薩是
為身　菩提

世世代々やとてのいの事傷、今は
ぐんぬい化して東移社下籍を
知事は親仁なり

仮用書

高知県立図書館

僧は小魂でて たぐらぎやぎと
今日まで くらしてきました
まぐが何ひとん成功しふ
大変ありません

赤川

名のるべき氏も姓もなし 湯て文
士の現に位一身ら惚つるのみ

小士文

秋法変人　磯野於菟丞

柳生

ふるさとの月をながめて
ものおもふ
ものとなりけり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大阪東區南濱海岸二丁目住　秋田縣士族
辰　手賀詞　内藤虎次郎
慶應二年七月生

父は南部藩の輕き身分のものゝ
様存命ニ中事ニ付當人事家
の學問ニ閑ニ軍ハて少しゝ漢學を
ならひ為字を爛ニ入中ハ別

鶴ヶ市より湖南又黒頸谷を経て
中野御陣所なるの表徳寺に到
なべて名湖南十和田湖の別
周十里ばかりの湖水の南を生保内
村と呼び江州人と見えたる
事實は奥の通ふて中陸中國鹿
角郡毛馬内村に本籍有りと

千年ぶりの紅葉
和清水の
黄し長いあれど
きをとめ人な

浅井忠

帝國圖書館藏

帝國圖書館藏

牧野克次

元治元年一四月ヶ月一日河内國道
明寺村杉本と唱へる百姓の家に
生る物心ハ父母の姓ちり
父母ハ代々大阪住して酒造醸
天王寺屋平右衛門と称せり

世ノ人呼テ天平ト云フ
嗚呼百姓ノ家ニ生レ書家ト成ル能ハ
ザリシ者ガ一時国粋ト破壊セラレ
モノト呼ブモノ多ク西洋画ヲ模ス
思ハレヨラバ完メテ結ノ下ヨリ注ムヤ
仮ハ人ナラナサケナカヤバ

天因居士

居士名逸姓字又不詳何許人或云大隅
種子嶋人年少入大学以游蕩見
逐嘗飲于倡楼以無銭見錮于一室
其友議之居士曰天以綱常為桎梏
以因人於義方之中行作犯神乎是
一獄舍耳因自號天因中年絶

志當世折節礪行不忘於乏一夏若以人
而人不知猶有一種抗磊之氣勃々
乎懷者也所作詩不拘工國歌雖拙
而往々有性真之作其文行于世者乎
無他奇可取士自少謬以豪名後深自
韜晦想其拙之後按筐底則或有
足傳者也甲戌九月友人柴駿氏撰

村松恒一郎

伊豫國宇和島之産なり幼時
は秀戈と稱せらる長じて
甚だ凡ならず未見は神北に私淑
して朴江と號すなり其戈國なり
之は西洋の陳法の鉄脚に
基化せられて新式と為す
今尚は依然陣笠なり但し
義左史のみは海軍大に発達
の見込みなりと其師は云へり
此は記すべき何人にもなし

左大臣源聽後胤

源遵勝

初め行ひ給ふ様と聞えし「ぼう坊」と後に
呼ばれ大ぶ時あるにしがや、物心を覚えて
後は「ぼう」と呼ばれて「ぼう〳〵」と愛
重の中よりいちめられ事い「ぼう〳〵」とはねる
か今う重ねもしから成長して

是とゝふ仕来りたるゝも無し世まだら
女難あるし相妻とゝ有る者之ゆゑ小世の
〻付福〻長寿ゝ人ゝ人ゝ人ある者迄
〻付込〻〻〻〻用る揚くべし手者
只ゝ醫者御名は「でぶさん」又武平治
ゝふ尾州名古屋の産屋今は大坂市東区中道
唐屋町二ノ二ゝゝ住む

以下作者五顆美州名産成
翰墨有明沒三十八年所用ゝ
六月十日

宗宮禅

出生 文政四年六月十六日

於八幡社代公傾倒出生之地

文杭馬之丞

菅原定憲

文政四年六月十六日

於八幡社代公傾倒出生之地

河野已之助

明治二七年生 仍テ已之助ト云ヒ後名ヲ冠セラル 郷里ハ黄薇尾道、鶴浦ト

辞スレハ其異名ニ成レリ 当村中之島六丁目ニ

住ム別ニ記スベキ程ノ履歴ナシ

肥後熊本城主

侯爵 細川家

禄高五十四万石八、何万石

東京朝日新聞社

上野吉太郎

せいき 麥御門外

用人兼重夫

十吉

山内氏 江戸

愚邸八本名

愚侯八愚号

浪華に出たり年をくれよ春をまて
かすのゝゆめをいとう傾ちかた

大田源之助詠

海南　野間芝徳

生国は伊豫松山城藩知名は
彦五郎と称し安政元甲寅
六月乃出生なり身分は士族
にして中年政堂塾に昇れ

多くも除ぬ家産式微
して現今は流離轍北陽の侍
遠流から特赦乃僑居に蟄
し罪を受る者と如
時洪武二十七甲戌九月

[illegible]

仏千歳の一つ成し

今日まで

井戸和飯

祖先は鋤と鍬と鉈鎌とをもつて田を
耕し生は口と足とを使つて仕事
をを送る素寒貧は家傳の
鎌倉のどんは函館チャン節を取
る四能女藩の一寒士今は大家の主武

石橋為三助

明治四年六月十二日大阪ニ於テ拙家
ハ下宮ニ於テ芸者屋ヲ営ミ十人西世側
ニ並ベタル内奥ノ端ノ部屋ニテ芸者ヲ
上ゲタル男幕臣ノ風ノ果ヲ貪ヲ
生れあがらの拙者ハ子供ニ代ヲ世
男ヲ親出しの中果ものを世人と生るのみ

の念願尚らや厚かや疑はし白手と雖
すは神奉今年こと生れたる故か或は世の
罪を負うて死のし徒白髪塚の神の
小年まあやかりんとそか自分らも知ら
ず

浅草七軒町の住人の話しから

西南の役母の胎内にあり百もはと日
向都城に生る、伝聞の師起り軍に
従ふこと二回奉天附近の大会戦後
凡て帰る、現下勝山城下末町に
庵を開き、其地秋乃我庵と称す

主人

東京都立中央図書館蔵

帝國圖書館藏

政治家たらんとして得ず商たらんとして
得ず耶蘇教主たらんとして得ず神に
奉仕して悟了せるを得む新聞社員と
なりて人民ふを得ず但手を無産階級
として飲む丈けはさマッ人並みなり

太田朱三郎

長野一枚

右ハ嘉永元年四月長崎ニ
住ス家ハ世々長崎奉行支
配地役人ニ一昨年たり走番と歸
するハ第二番目時あらにあらず

羅馬字綴に七一校長野と
書きあり名氏の所字を字音に
なりたるなり

源知能

平民

明治大年三月九日生　幸田成友

東京に生まれ東京に生長し慈母に育き

父兄の庇蔭により十数年学校生

活を為すより昭和三十四年東京帝大を卒

り今は六甲山下に住す

右

[illegible]

四年[illegible]から[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

判者古参播磨人中云右京の姓名新弾正後
さくみのすけ名と言ふ所ほうきのかみ
なりすけ右の生国と京籍とにはかなる
あれはなれど現住所に住居おやこぞうしぞまれなる
の三名ともに撰ぶるやうにとふ所
つかなりは右ともに人をあらけ たそばはと
言ふ作り　甲張九月十六日　右の人